

## 第8回 「朝日新聞のくらし報道」

07年11月20日  
朝日新聞社・石井勤

### 1. くらし報道の始まり

- ① 99年2月 「くらしのあした」班を創設：記者15人体制
- ② 00年2月：くらし編集部への移行準備が始まる：記者35人体制
- ③ 00年4月：朝刊に「くらし」面が誕生

### 2. 目指したのは伝統的なニュース価値の変更だった

- ① 「何がニュースか」のパラダイムの変換  
従来は「新奇性」「意外性」「話題性」「広がり」など  
「暮らしを左右する事柄がニュースだ」
- ② 同時に編集局の取材体制（取材領域の縦割り分担）を変更  
政・経・社・科学・学芸 → 編集局横断的な記者集団に  
主な取材テーマは社会保障制度：介護保険、年金、医療
- ③ 「どこで取材し、何を伝えるか」の重心をシフト  
永田町・霞が関 → 地方・地域  
制度設計の場 → 制度運用の現場

### 3. 背景に時代の必然

- ① 福祉の現場に機能不全が生じ始めた：福祉行政の手が届きにくくなった  
助けを必要とする側の変化+変化への対応の遅れ  
「スキルがなければ福祉はできない」：官から民へ/NPOの活動拡大
- ② 高齢社会への不安が募っていた
- ③ 介護の仕組みづくりが急務になった
- ④ 多くの人は何が始まるのか理解できなかった

### 4. それまでの新聞報道

- ① 縦割り組織のまま取材・報道を続けていた  
政・経・社が分担して取材 → 紙面も縦割り  
全体像を描こうとしない報道が続いていた
- ② 読者の不安を受け止めきれしていなかった

### 5. 担ったのは「パブリック」の意識づくり

以上